

警察庁の発表によると、平成25年の交通事故による死者数は4,373人で、13年連続の減少となるとともに、発生件数および負傷者数も9年連続で減少しました。そこで平成25年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「平成25年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」による)

|                |                                     |                              |
|----------------|-------------------------------------|------------------------------|
| 平成25年の交通事故発生状況 | 発生件数 *                              | 629,021件 (前年比-36,117件 -5.4%) |
|                | 死者数 *                               | 4,373人 (前年比 -38人 -0.9%)      |
|                | 負傷者数                                | 781,494人 (前年比-43,902人 -5.3%) |
|                | * 発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。     |                              |
|                | * 死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。 |                              |

### 65歳以上高齢者の死者数が前年より増加し全体に占める割合が過去最高に

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が2,303人で(図1)、前年よりも増加するとともに、全体に占める割合も52.7%と過去最高になりました。

また、65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が1,117人(48.5%)、自動車乗車中が613人(26.6%)、自転車乗用中が378人(16.4%)、二輪車乗車中が184人(8.0%)となっており(図2)、二輪車乗車中以外はいずれも前年より増加しています。

歩行中の高齢者はもとより、高齢運転者標識を付けた車や高齢者の乗った自転車にも十分目を配りましょう。

### 「工作物衝突」が前年より増加し「横断中」に次いで2番目に多い

死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が1,706件(39.9%)、人対車両が1,495件(34.9%)、車両単独が1,020件(23.8%)となっています(図3)。

最も多いのは、人対車両の「横断中」で1,086件(25.4%)、次いで車両単独の「工作物衝突」634件(14.8%)、車両相互の「出会い頭衝突」551件(12.9%)となっています。「横断中」と「出会い頭衝突」は前年より減少しましたが、「工作物衝突」は80件(前年比+14.4%)も増加しています。

運転中は電柱や中央分離帯などの工作物にも十分注意をするとともに、状況に応じてスピードをコントロールし、急ハンドルや急ブレーキをかけなくても済むような運転を心がけましょう。

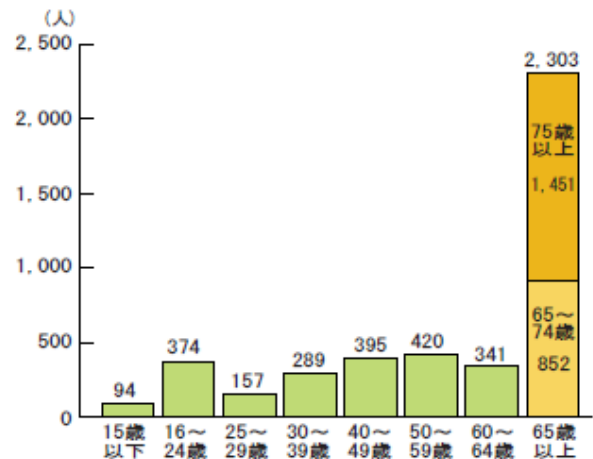


図1 年齢層別死者数(平成25年)

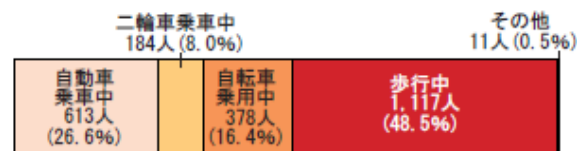


図2 65歳以上の状態別死者数(平成25年)

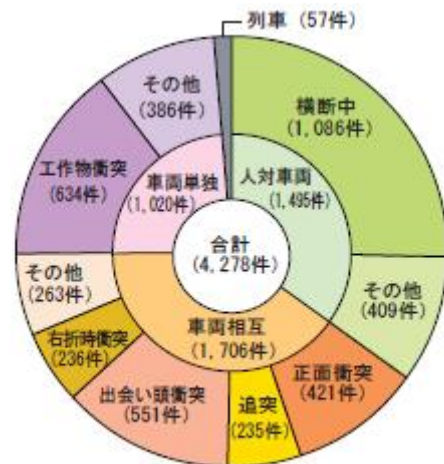


図3 事故類型別死亡事故件数(平成25年)

## 交差点とその付近で 死亡事故の半数近くが発生

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,450件（33.9%）、交差点付近が534件（12.5%）を占め、交差点内と交差点付近を合わせると46.4%となり、死亡事故の半数近くが交差点内とその付近で発生しています（図4）。

交差点とその付近は事故が発生しやすい場所です。信号を守ることはもちろんですが、右折時や左折時は徐行をする、信号機のない見通しの悪い交差点では、一時停止や徐行をして安全確認をするといった基本を守った運転を心がけましょう。

## 「運転操作不適」が 前年よりも20%近く増加

原付以上運転者が第1当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、「漫然運転」が678件（17.6%）で最も多く、次いで「脇見運転」539件（14.0%）、「運転操作不適」450件（11.7%）となっています（図5）。

「漫然運転」と「脇見運転」は前年よりも減少しましたが、「運転操作不適」は74件（前年比+19.7%）も増加しており、これが事故類型別における「工作物衝突」の増加の要因の一つになっていると考えられます。

不適切な運転操作は死亡事故につながります。常に慎重な運転操作を心がけましょう。

## 死亡事故件数・死者数とも 昼間と夜間はほぼ半数ずつ

死亡事故件数を昼夜別にみると、昼間が2,144件（50.1%）、夜間は2,134件（49.9%）、死者数についても昼間が2,191人（50.1%）、夜間が2,182人（49.9%）と、いずれもほぼ半数ずつといえるでしょう（図6）。

昼間より夜間のほうが交通量が少ないにもかかわらず、件数や死者数がほぼ同じということは、夜間のほうが死亡事故が発生しやすいことを示していると考えられます。夜間は昼間以上に細心の注意をもって運転しましょう。

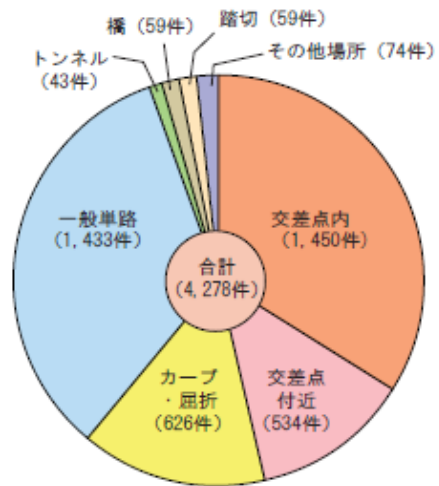


図4 道路形状別死亡事故件数（平成25年）

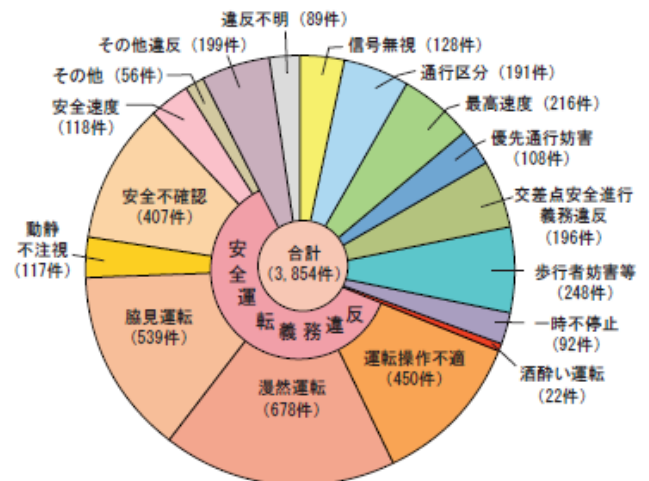


図5 原付以上運転者（第1当事者）の法令違反別死亡事故件数（平成25年）

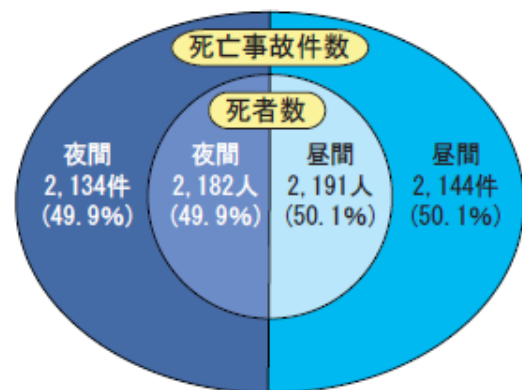


図6 昼夜別死者数と死亡事故件数（平成25年）

「ご相談・お申込先」 株式会社 保険企画カワイダ  
鹿児島市薬師2丁目5番22号

TEL 099-253-4405 FAX 099-253-4425